

川根本町 図書室だより

9月

2023年9月号

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内7コース
TEL:0547-59-3106(文化会館)
TEL:0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間:午前9時~午後5時
- ☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(17日)・祝日の翌日(19日・24日)
- ☆ やまびこ号巡回コースは
かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新 着 図 書

『家事か地獄か』

稲垣えみ子 著 マガジンハウス

お金の頼らない生き方

文



自分の面倒を自分でみる。これがほんとうのお金に頼らない生き方。歳をとって体が動かなくなったら、食べるものも、着る物も、住まいも、持ち物も、どんどん小さくしていだけ。そう考えたら安心だ。増やすことは難しくとも、減らすことなら誰だって実現可能だから!不況災害・老後もなんのその。人生100年時代のまさかの出口戦略。

『ワースト添加物』

中戸川貢 著 ユサブル

これだけは避けたい人気食品

文

様々な食品メーカーへの勤務経験を持つ加工食品ジャーナリストの著者が、危ない添加物を紹介。いたずらに添加物の害を主張するのではなく、本当に避けなければいけないワースト添加物を知り、添加物の害を極力小さくするためのミネラル補給法を知る、賢い消費者になるための必見書籍。

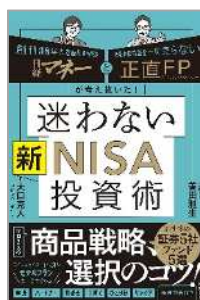


『迷わない新NISA投資術』

菱田雅生 著 大口克人 著 日経BP

お金のプロが考え抜いた投資術

山



損もイヤだし、一からの勉強も大変。でも情報も証券会社も、銘柄もかなり「迷う」。選択肢が多すぎてどう「選ぶ」かもわからない。そんな投資の「迷い」が消えるように、正直FPとマネー専門誌記者が本当に大切なところだけを深く解説。この1冊で23年NISAも、新NISAも、生涯の投資戦略までバッチリ!

『エレガントな毒の吐き方』

中野信子 著 日経BP

「言いにくいことを賢く伝える」技術

山

「本音は正義」「嘘をつかないことが、無条件にかっこいいことである」本当にそうでしょうか? イヤだ、不快だという自分の気持ちを無視したり、心を殺してなかったことにするのはなく、返す言葉に、「エレガントな毒」として含ませる。言いたいことを言うけれども、相手を直接傷つけたり、関係性を破壊してしまったりしない。そんな「大人の教養」と「古都・京都が育んだ人間関係のエッセンス」を学ぶ。



文化会館図書室

今月の
特集

住まいを整える



ほか

◎ 新着図書



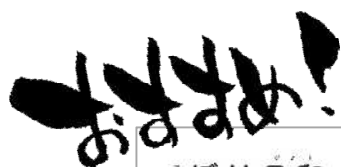
川根本町
インターネット
図書室
ホームページ



図書だより
バックナンバー

新刊の詳しい情報は、【川根本町図書ネット】で検索。
または、右記QRコードよりご確認ください。

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>●『はーばーらいと』 吉本ばなな 著 晶文社 信仰と自由、初恋と友情、訣別と回復。 淡々と歌うように生きるさまが誰かを救う、完全書き下ろし小説。 「恋愛小説ではあるのですが、何よりも人に優しいとはどういうことか、かなりまじめに考えて書きました。」</p>	<p>●『図書館のお夜食』 原田ひ香 著 ポプラ社 書店に勤めるもののうまく行かず、仕事を辞めようかと思っていた樋口乙葉は、SNSで知った東京の郊外にある「夜の図書館」で働くことになる。そこは亡くなった作家の蔵書が集められた、いわば本の博物館のような図書館だった…。</p>
<p>●『夜果つるところ』 恩田陸 著 集英社 遊廓「墜月荘」で暮らす「私」はある時、館に出入りする男たちの宴会に迷い込む。着流しの笹野、背広を着た子爵、軍服の久我原。なぜか彼らに近しさを感じる「私」。だがそれは、夥しい血が流れる惨劇の始まりで</p>	<p>●『津軽の髭殿』 岩井三四二 著 光文社 津軽に生まれ、母に「大將軍になりなされ」と吹き込まれて育った弥四郎(後の津軽為信こと右京亮)。天下に覇を唱えんと、仲間と共に版図を広げ…。津軽為信の痛快な人生を描いた歴史小説。</p>
<p>●『恋の幽霊』 町屋良平 著 朝日新聞出版 京、青澄、土、しき。高校で4人は出会い、恋愛のぜんぶを出し尽くした。あの事件が起こるまでは。あれから15年。大晦日に送られた京からのメッセージが、どん底のいまを動かしはじめ…。</p>	<p>●『光のしるべ』 あさのあつこ 著 角川春樹事務所 仲間とともにくえにし屋に現れた物乞い稼業の少年・信太。同じ頃、行方知れずの息子を探してほしいと夫婦が訪れ…。縁を商いとす者と頼る者の光と影を描くくえにし屋春秋シリーズ第2作。</p>
<p>●『星合う夜の失せもの探し』 森谷明子 著 東京創元社 スキ野原のまんなかにつく秋葉図書館。ごく普通の市立図書館に見えるけれど、実はちょっとした伝説がある。それは、ここの司書さんは探偵で、図書館の本で謎を解決してくれるということ…。全6篇を収録した図書館ミステリ。</p>	<p>●『パシヨン』 川越宗一 著 PHP研究所 人はなぜ争うのか…。禁教下での最後の日本人司祭・マンショ小西を軸に、迫害する側、される側、双方について描いた圧巻の歴史小説。</p>
<p>●『トムとジェリーをさがせ!ピックリ!ドッキリ!世界のようかい&モンスター』 ヤマグチアキラ 作 河出書房新社 妖怪退治の冒険に出かけたトムとジェリーを探してみよう。楽しみながら集中力が身につく、さがし絵本。</p>	<p>●『コジコジにきいてみた。モヤモヤ問答集』 さくらももこ 作 ブルーシーブ 「勉強しないとダメですか?」「死んだらどうなるの?」みんながモヤモヤする100の問いにコジコジが答えます。</p>



『マンガ ぼけ日和』 矢部太郎 著 長谷川嘉哉 原案 かんき出版

心あたたまる認知症マンガ



文化会館図書室所蔵

この本は、認知症専門のお医者さんが出会った、たくさんの患者さんとご家族のお話です。

認知症のいろいろな症状があるなかで、症状によっては、どう接したらいいかも分かってところが、とてもいいなあと思いました。

認知症の症状が分かっているならば、やさしく接することもできたり、少しでも認知症の方とその家族の方が穏やかな日々を過ごせるのではないのでしょうか。

矢部太郎さんの漫画がやさしくあたたかな気持ちになり、ほっこりします。笑って泣けて心あたたまる一冊です。ぜひ読んで頂きたいです。

図書室スタッフK